

# 令和4年度 障害者スポーツ推進プロジェクト（用具活用促進事業）

## 報告

## 背景

- ・「第2期高知県スポーツ推進計画」施策として「スポーツ参加の拡大」を掲げ、持続可能なスポーツ活動が提供できる体制づくりを実施
- ・県立障害者スポーツセンターを核とし、障害者スポーツの理解啓発を推進
- ・県東部及び西部に障害者スポーツコーディネーターを配置、障害者スポーツセンターと連携し、幅広い地域の活動を支援
- ・東京2020パラリンピックでの県出身選手の活躍等により、障害者スポーツへの関心が高まっている
- ・「令和3年度県民の健康・スポーツに関する意識調査」で「誰もが障害者スポーツを楽しめる場」「アスリートのプレーを間近で観る機会」の提供が望まれる

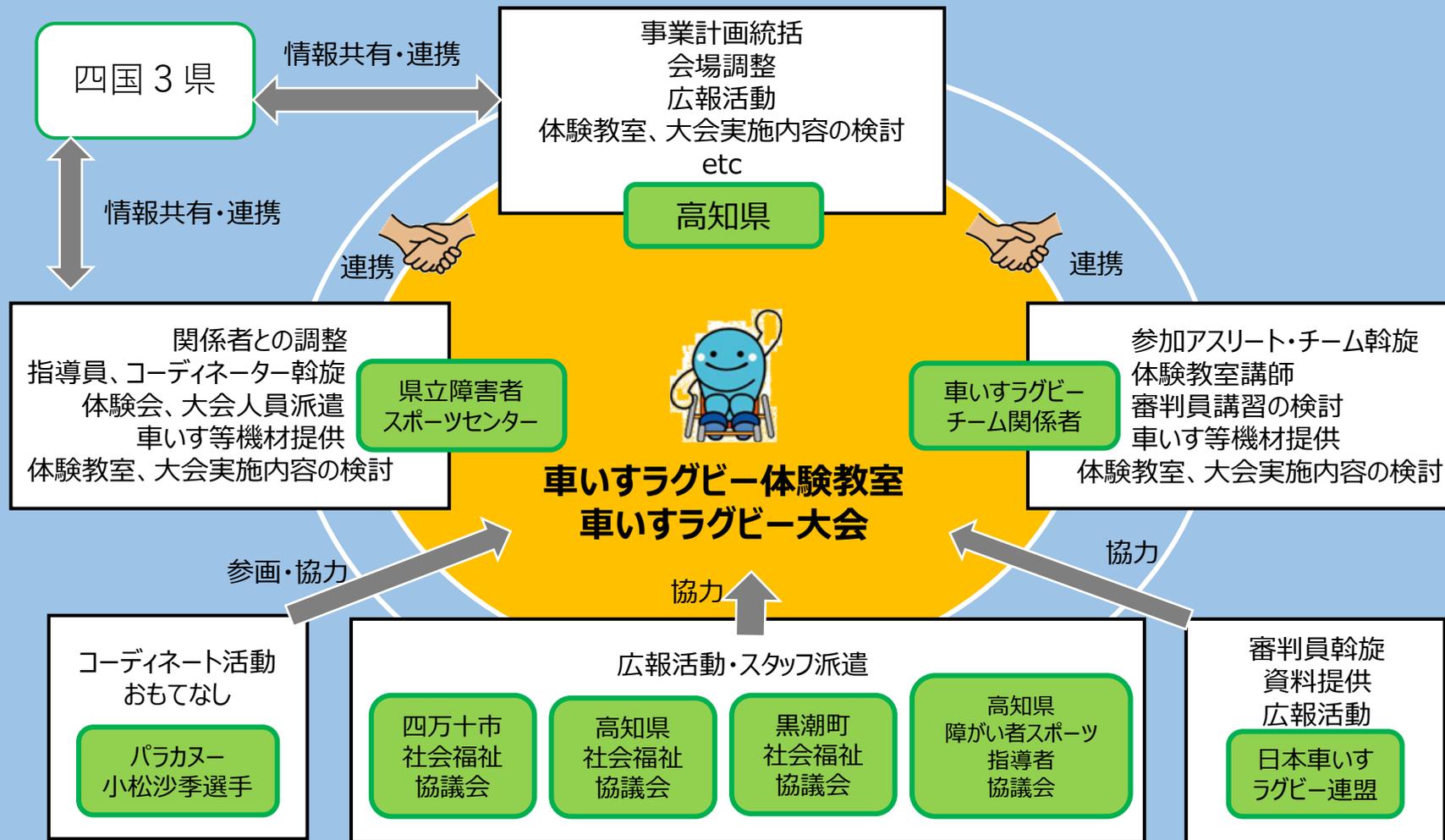
## 事業趣旨

障害者のさらなるスポーツ参加機会の拡充、県民の障害者スポーツへの関心を高めることにより、障害の有無に関わらず誰もがスポーツに参加できる共生社会の実現を目指す

## 具体的な事業内容

- ・県西部の小・中学校3校の児童生徒を対象に、銅メダリストの池透暢選手その他日本代表選手を含む車いすラグビー選手による車いすラグビー体験教室や、国内トップクラスの3チームによる車いすラグビー大会を開催する
- ・四国内の車いすラグビー普及活動の支援、四国4県の連携強化を目的として、他の3県の車いすバスケット審判員に車いすラグビー審判補助を体験してもらい、審判養成のきっかけづくりに繋げる
- ・車いすラグビー用車いすを新たに3台整備し、高知県立障害者スポーツセンターを中心に県内外へ広くシェア・レンタルする仕組みを構築し、県民のスポーツ参加機会の拡充、障害者の競技力向上、選手や民間企業等の社会貢献活動への支援に活用する

# 事業実施体制



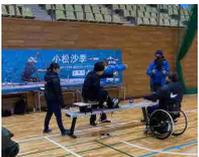
# 実施報告

## 体験教室



- 高知県幡多郡黒潮町の小中学校 3校で 4回実施  
参加生徒数：109名
- 児童生徒や教員が、日本代表選手の迫力あるプレーを間近で観たり、車いすラグビー用車いすに乗ってスラローム、パス、タックルを体験
- 選手を囲んでのグループワーク（車いすラグビーをはじめたきっかけやスポーツを通じて学んだこと、車いすでの日常生活で感じていること等）

## 車いすラグビー大会



- フリーダム杯 観戦者数：延べ166名（2日間）
- 車いす、ポッチャ、パラカヌー（小松沙季選手が指導）の体験コーナーを併設し、試合の合間に選手と交流できる機会を提供、試合後には観戦者が選手と一緒に車いすラグビーのゲーム形式体験会を実施
- 四国の車いすバスケット審判員に審判補助として体験していただくことで、車いすラグビーを支える新たなスタッフを養成・確保
- 最後に、体育館床タイヤ痕の清掃を選手、観客、スタッフ全員で実施

体験教室対象校及び近隣市町村の小  
学校、福祉施設等  
へチラシ4,000部配  
布  
役場、商業施設等  
へポスター配布  
報道関係への展開



# 成果・課題

## 成果

- 子どもから大人まで、多くの方に車いすラグビーを体験してもらうことで、パラスポーツへの理解啓発に繋がった
- 県西部の障がい者スポーツ指導員や福祉関係者との連携が強まり、障害のある方が身近な地域で参加できるパラスポーツイベントの良いモデルケースとすることができた
- 県外のアスリート、審判員を招致することで、県内のパラスポーツを推進するネットワークが広がり、他県と連携してパラスポーツを推進する基盤を強化することができた
- パラスポーツ体験コーナーや、観客、選手、スタッフ全員で床掃除での交流を通じて、障害の有無に関わらずスポーツに参加できる共生社会を体感・共有することができた

## 今後の課題

- 本事業を一過性のものとせず持続可能な活動とするため、他の地域での活動も見据えた推進体制を構築していくことが必要
- 四国4県の連携をより強固としていくため、本県の車いすラグビーや各県の特徴を活かしたパラスポーツの取組みを継続して実施することが必要
- 新たに整備したラグビー用車いすを、より有効にシェア・レンタルする仕組みを構築・実践することが必要

**【連絡先】**

**〒780-0850**

**高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号**

**高知県庁西庁舎**

**高知県文化生活スポーツ部**

**スポーツ課**

**主査 矢野 翔大**

**電 話 : 088-821-4649**

**F A X : 088-821-4716**

**e-mail : shoudai\_yano@ken4.pref.kochi.lg.jp**